

# アユ資源回復支援モニタリング調査

(アユ資源回復手法開発事業)

寺戸稔貴・雑賀達生

## 1. 目的

県西部を流れる高津川において、アユ資源の動向を把握し、流域関係機関による資源回復の取組を支援する。

## 2. 方法

### (1) 流下仔魚調査

高津川の河口上流約3.5kmの産卵場直下において、2024(令和6)年10月9日から12月11日にかけて流下仔魚調査を計9回行った。各調査日の17~24時にかけ、1時間毎に原則5分間ノルパックネット(GG54)により仔魚を採捕した。得られた仔魚は、直ちに5%ホルマリン溶液で固定した。実験室に持ち帰った後、仔魚数を計数し、ろ水量ならびに国土交通省提供の河川流量から流下仔魚数を推定した。

### (2) 遷上魚と放流魚の比率調査

2024年8月18日にさし網漁業により漁獲されたアユを購入し、外部形態（側線上方横列鱗数、下顎側線孔数、背鰭の形態）から遷上魚と放流魚を判別し、各漁場における割合を比較した。

### (3) 遷上魚の日齢査定

2024年4月11日から2024年5月22日にかけて、高津川支流の匹見川および益田川において投網により遷上魚の採捕を行い、遷上魚の耳石日周輪数から孵化時期を推定した。

## 3. 結果

### (1) 流下仔魚調査

総流下仔魚尾数は約27.6億尾（暫定値）と推定され、前年の21.7億尾（確定値）を上回った。また、流下仔魚数のピークは11月中旬の10.5億尾と推定された（図1）。

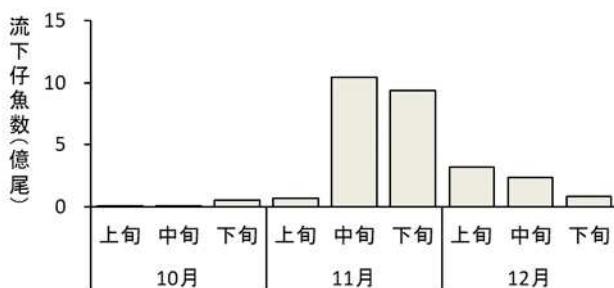


図1 高津川における流下仔魚数の時期別推移

### (2) 遷上魚と放流魚の比率調査

遷上魚の占める割合は、高津川上流が75.9%（遷上魚22尾、放流魚7尾）、高津川中流が80.0%（遷上魚24尾、放流魚6尾）、高津川下流が100%、匹見川が82.8%（遷上魚24尾、放流魚5尾）であった（図2）。水系全体では遷上魚の割合が放流魚よりも高かったことから、2024年の遷上は良好であったと考えられた。

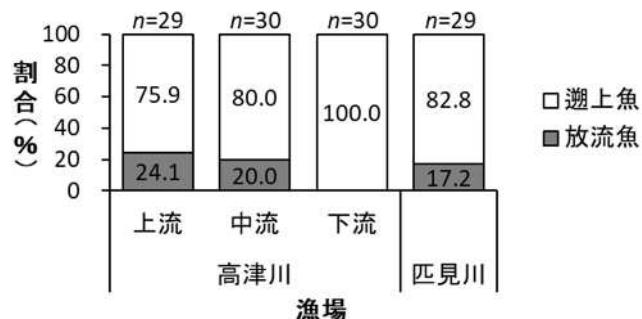


図2 各漁場における遷上魚と放流魚の割合

### (3) 遷上魚の日齢査定

調査期間中に採捕された遷上魚は計486尾であり、そのうち64尾を抽出し、孵化時期を推定した。孵化時期は2023(令和5)年11月中旬から2024年1月下旬と推定され、そのうち2023年11月下旬から1月下旬に孵化した個体は62尾（約97%）であった（図3）。

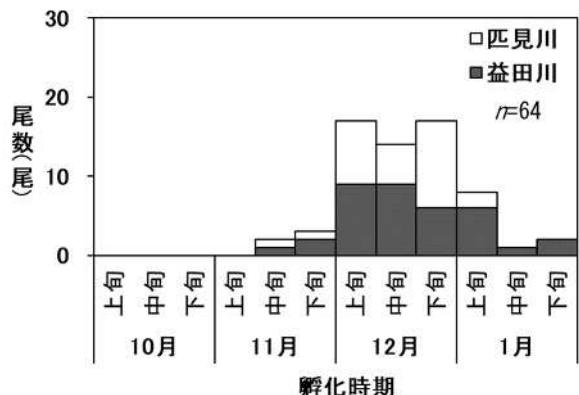


図3 匹見川および益田川における遷上魚の孵化時期

## 4. 成果

調査結果は高津川漁業協同組合の漁場検討理事部会ならびに通常総代会等で報告され、資源回復対策を検討するための資料として活用された。